

「失ったものではなく、できることに目を向けよう」



- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、花輪ばやしや秋田竿燈まつりなどが中止されるなど、いろいろなところに影響が及んでいます。
- そんな中、毎年9月に開催されている「特別支援学校総合体育大会」も、子どもたちの安全確保が困難であることや、十分な練習時間が確保できないことなどを理由に中止というニュースが飛び込んできました。子どもたちにとっては、部活動の練習の成果を発揮する舞台となっているだけに、大きな目標を失ったこととなります。指導者も苦渋の判断を受け入れる一方で、落胆の声が上がりました。
- 部活動は学校教育の一環と位置付けられており、試合で勝つことやコンクールで優勝することが最大の目標ではありません。かづの校では、昨年度子どもたちの「～をやりたい」を形にするために、新たに陸上部と卓球部を創設しました。今年度の学校経営の重点として、「児童生徒が目標をもって取り組める部活動を計画し、自主性や協調性、連帯感を育成する」を掲げています。異年齢との交流の中で、子ども同士や子どもと指導者等との良好な関係を築いたり、子ども自身が部活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、多様な学びの場であり、教育的意義は高いといえます。
- 学校が再開され、子どもたちに大会中止を伝えなければなりません。改めて、指導者間で部活動の意義や目標を確認するとともに、近隣の学校間による代替大会の開催や、地域及び保護者の協力を得ながら小さな大会の計画など、子どもたちの活躍の場を模索したいと考えています。併せて、毎年7月に開催されている秋田県障害者技能競技大会（アビリンピックあきた大会）も中止が決まりました。秋以降に開催される地区別の技能競技大会の実施と、校内では子どもたちの職業技能向上を図る取組も必要であると考えています。失ったものではなく、子どもたちができることに目を向けていきます。

